改正

翁問荅

下

ロ 9
3884
3 上

翁問答卷之五

仲之問曰。儒人とハいかなる者を儒人や
と云。答曰。心術ちがひて。よく藝能文学人にすぐれ無名
なり。智たくましく。藝能ふかく。義理を通じ。人をだまして
こと聖。狐のごとくにして。虎狼のごとく
なる。人倫の棟梁やぶれ。虎狼
狐のごとくなる邪人。智藝能
学問。弁舌をもつて。天子のうるおひ。人をぐうし
こと。狐のゆめさつふわ。ひとしきるたらしめ。

門口9
號 3884
卷 3

昭和十六年一月十一日寄
尼野貴英氏贈

ゐれしかはまことに君子なりとぞてらやはかなり
ゐ系は偏人にして天下を亡し
名をうしなひ人なり世君にとてらやはかなる
さ由家伝士ゐの藝めくを為る土物讀婦
き流の中にも偏人孤おりくけあると人く
う天子諸侯の法男かんまはをさすそは
俳え向日郷原というやうなる人をやはり
源義曰世俗のやうなる人を郷原と
ふ郷原は様物利振まてを受人をもくれ
何ゆゑ裁判しそもうしはば若婦忠信を

はしめ行屋玉歌を弱和なさやう
ゆ足ゆまとそのの志唯南世の人ゆ和
のゆとその主君に獲らまて立身すれとも
ひとしるしとをゆるとも義理をもはなを
ゆ足ゆ名利は談泥よきこなくけられるん振
うるにしるく若婦お屋玉歌のたー
なを猛高のて振ゐすひしらをゆそす
ゆられゆ若婦に似くゆ実の若婦にあゆ
屋玉歌より似くゆ実の屋玉歌よりはゆ
ん義理を守ゆすして利害のゆるゆ振ゆ

ふるよりしるくみえたり。みなもとのよりとも利根
なるものハ多くは腰痛なりなどと世伝のごとく
なれど鄉原のにくまれを見て云なるべしなるものハ
鄉原ハ名利より歌人なれども利宮のなるべ利
根なりしかるにかくばかりなれども義
理をかくしなれどもなるべしなるべしそのせいなり
なげかるもやはりにかくばかりなれども鄉原の利根と利根の
ふかハ
理鄉原の利根なるべし名利より歌ふかく義
理の是非より利根して仲宮なるべもなるべ

かくのごとくなれども目ぬきなくひこまくらの義
理をいうゆへなるべしなるべしなるべしなるべし
云なるべしもなるべしなるべしなるべし鄉原ハ世乃ふもあるべく老子ハ稀なれバ
鄉原の利根なるべしなるべしなるべしなるべしなるべしなるべし云なるべしなるべし
なるべし宜なるべしなるべし云へ山鄉原撰物利根
して逆よりなるべし畑にあらずその上面よりの鄉
中りれ老子の芝景より鄉なるべし海のそこなるべし
なるべしなるべしなるべしなるべしなるべしなるべしなるべしなるべし鄉原ハ海
の賊なるべしなるべしなるべしなるべしなるべしなるべしなるべしなるべし今の世にハ鄉原の
ひこそこなるべし沢山なるべしなるべしなるべしなるべしなるべしなるべしなるべしなるべし志なるべし

くわきまんくらくぞくてんもるのふまーさごるのや
仏之図曰ぞくの禮法よりぐひてぞよりあるハ
持のゐちりとぐるゐいぞやしぞ戒式
嘉曰持ハ行人の姫貝祇ゐの逆名や大うて
ぞ業舞の禅授湯式の放伐ぞみーてハ関ゐの
吐拔孔ゐ物こ便そ云一動の徴よ意すぐぞ
持のゐかりこうな弥よゐてゐようのみを
持とゐれハ大かるぞ誤や揺るすてぞその誤ぐ
西ーぬさいぐ持ハこうのおりりかり祇ゐと持
とゐづうる名義ハ天と同仏ぞ深ぞ長陽ゐ

経法せず拉よくず。独徒独乗法滝こ地よーく
おこるひたち上而ことくくを天ゐの祇理に適當
恰好ゐる景象。秤のおりりの堂くうるく徒
来常ぞーて物の徒を乗りて適當恰好ゐ
ゐに仏ぐ意ゐこにより嘉とぐ天哭ゐーの
人。氣質の異ゐりてぞ法ぐくく持をおこかり
ぞゐ。ぐハぐう為に。聖人天下のくあに禮法ぐ定
徒代徒法おぞるゐ持のゐちれもぞでよ。法
ゐ定ゐまぐ。通ありて変通の活潑ぞさにーに
持くいぐーて徒法と云やけ意をまぐ徒り。

禮法の要を。言実のたがはりとんだて聖人立法の
かたち指たの姿をさしてず。禮法ふなずして
学ばたとりかとなひ時中の神理にそひることハ非禮
の礼とをつけて。老子のせざるやハ非禮の
礼をも。言実の禮なりとぞ。ようひ。ちう人聖賢八
非道禮法よりグへらる地位くぐひとり
禮と指ぞ。各別やなどぐ。ぐひんするやハ指の字
精義をちらぶれど。んをまに。志ありて殺知カリ
とぐまいしたしも必。欲言語法の地ふ法ふ下
大学の禮道ハ指を深に分ふ。ふ実なり。紙

得ぞ。ハ指とハん。文勇するものや法ありて法ふ
おちずぬ。ゆりとをつけくして。ぬざる。ふなく。宝と
ころけくして言しぐる。ふなる。指ぬ学の理味と。
ちうく。仲遇ぬべー

一

仲文曰ぞ。ふらぐ。初学の人も指とおこらひて
中庸
師義曰指ぞ。賢人の姿用ありて初学の人ぬ用
するこぞ。工夫の準的ハ。るべ指
を用ありてとぬべー。たとえハ鍼灸を打がごとしいな
ぐめぐ。初学ふ。ふ。初学の人のねらふ。ふも。ふとたち

かひハなけれども、いまだめハうつおとにこゝろをとゞめこれにお
ける初心の人ハ、かくとも、うしろつきにちからありて、その
あたりをおさへてうたるゝゆゑに、天地懸隔なれども、めあて
の稀なる所をしらずして、はらおつべき理なし。かくのごとく
初学の交用と聖人の妙用とハ天地懸隔なれど
も、規を準的として工夫せざれば、次第に会得あきらかになるべ
きことなり

論語曰、子曰、可与共学未可与適道、可与適道未可与
立、可与立未可与権とハ聖讃をふかく見れども権
初学の者にさとすべきにあらずとなりとハいへり

此篇ハ聖讃ハ学者の用ひてある所の位を
よりと益して上達の志おこりてさらにとゞまらずして
ことにて、まふ初学や初学の者権をしらざる
ろすくのゝ事なれバ、初心の者ハ可与共学の学ハするとも
ちから権の所をみて学や可与適の所もするとも
ちから権乃所や可与立の所もするとも権乃所や
権ならず乃所にいたりて権にいたる学
権なく学の所に権なし、此交用にハ聖賢大小権
初の学のわるのこゝろなれバ聖讃の至らざるの
工夫成就のひ事をおりて心極無上の体をさとる

ぶ
おして。ぶの若の準的を示なり人をのおう孟子通
性の善を云ふ称堯舜云ふ儀同文王我師や周公豈
敢我哉ひくのごとくこの賢範をうく体弟子の
ふ。欲ふべ。ぶこの準的をおくることを心学の
徒やしも。候言語法の地。執常して狂穢の礼
あるべ

仲之曰法氏曰指若邪人之大用法孟子曰指而已矣指
人能充之而敬而弟不仁矣指云おくぶ人
之生の義等をこゆる幣ぶ。べしとなれいいく
師曰ぶ指云ハ指を工夫のめあてとすることを。

まり出るにあれ指の理味をんにちぶて
そこうひとあう人をぶまめこうもこうり指の
理味をんにそこうひて道のさりとけう人。ニ
ぶ一ふハ粗ぶにへうう人指ぶの法ふおちず逆ふ
つまごう面彩をぶ付中庸精微の知をわさまんを
微のんにまをておうこれなづまず法ふおううと
動指のるとして神ぶのう指にてなりう後を学ん人。
ぶん徒にぶまうう。れハ指ぶ体ぶ徹ぶ徹尾ことく
を中庸精微の神理にして法にあらず逆にあづ
まうう指の景象ぶるうことをさとうぶ彩を徹

て形とする。淳かん又一説ハ信儒の学をひろめて、禮法よりなづまざるを指なりとぞ。指なりとぞ。時中の適當をわきまへ、旅んに任じ、禮法をそむきそのんよも不義なりとぞ。小志れぬる慢の傲弟ぞれをぞ指の名をかりしの、ぐれことをなすあり。てそこの門人を聞し世を惑しをのゞまるげとなりなへり。今の拘らゝ法を流れなり。此二志れの指乃所員をのとゞまりめんためん法氏の指云を集註ふ。引用されたるし。

一 体充曰。淳于髡曰男女授受不親禮与孟子曰禮也曰嫂溺則援之以手乎曰嫂溺不援是豺狼也男女授受不親禮也嫂溺援之以手者権也曰今天下溺矣夫子之不援何也曰天下溺援之以道嫂溺援之以手子欲手援天下乎。孟子の此章を考見迷ハ孟と指と。学ぶのあるべきことなりいうぐ

一 師義曰漢儒及孟合学者指の説ハ此章を見而やまうるをのみ。此章の禮ハ禮法を指てい。

。禮法ハ天下第民の日用通行のあるを平生急務ものゝ学ぶ。学ぶものゝ学ぶ。邪考これ変ものゝ

礼法をたゞ大君に充満して身をたるれざるも
の乳だのとうの平生用の礼法もたゞまさ
兄弟の変に変ずる義もたゞ権ばかの
如なる為に礼法もなく権なれども
実のとく道あるにより権とゞまつけられなれば
法となづけらる嫂溺ハ兄弟の変めてあるを
もつて礼法なけれ嫂溺援之以手者礼也とい
ばして権なりといつり権ハたの如なれバする
たちたするあらゆる権なる為にたやといふんかて
権也といつるゆえ章男女授受不親礼也嫂

嫂溺援之以手者道也とあり嫂ハ叔父弟合道のゆえ
まりあるまゝ権ありとゞつるにより権の字
なゝゝゝゝゝいあるゆえ章の意ゝ礼と権
この分をあらはすあゝ法儒者のたゞ法はおちず
あとにたるゝまゝ上天時に律つゝ下水土に然れて
吾に止をなとゝもるこゝ成用示するこのなり淳
于髡ゝのまゝが私心をいふく孟子
の道の法候ハ礼礼を礼にくつゝめられざるゝ
て礼法ハ小なるゝこゝろ人なりと思ハにより嫂
溺のこゝを寓ゝして孟子を例ゝ云ふ

孟子儒者ハ乃ハ考の指をいくぶんして。
拙小凝滯せず。通ずるつまず。流滌の地なること
を志ゝ〜めくゝうのまうらひをこのんためよ。
そ。いハゆる指也と論じめされうり孝弟曰文
孝ハ天之強也地之義也民之行也天地之強而民是
則之とあるを。ハ強し。指しもあるすぐくの乃の効名なれ
ど。強と。指と無ありとゝ云ハ不可や。禮法と指と
ゝ無ありとゝいうハ可やとゝ。されども。禮法ハ
乃。指乃の義又なるゝ。ゝ。指と禮法と
用ゆるを。ハ礼法するゝ。指やゝ。中にたゞへて用ゆ

るを。ハ指にて。心ゝて。祇の礼とあるを。ハ。中貢礼
のかゝ。指ゝ。指乃かゝ。禮ゝ。指と禮法と
義ハすゝ。無あるを。ども。実ハ。理やうゝく
既味あるべ
仲文問曰。何ハ修行ゝ。ハ。
源義曰。神明ゝ。修行する。ハ。儒乃ゝ中ゝ
ちうゝ。に。祖を。天に配。又を上帝に配。神
明ゝ。通ずゝ。ゝ。孝弟ゝ。法たまゝ
ゝ。用禮曰大宗伯之職掌建邦之天神人鬼地示
之禮以佐王建保邦國以吉禮事邦國之鬼神示

以禋祀祀昊天上帝以實柴祀日月星辰以槱燎
祀司中司命飌師雨師以血祭祭社稷五祀五嶽以
貍沈祭山林川澤以疈辜祭四方百物又曰若大師
則帥有司而立早社奉主車若軍將有事則与
祭有司將事于四望又曰凡師田用牲于社宗則為
位類造上帝封于大神祭兵于山川亦如之祭法曰
燔柴於泰壇祭天也瘞埋於泰折祭地也用騂
犢埋少牢於泰昭祭時也相近於坎壇設寒暑
王宮祭月也夜明祭月也幽宗祭星也雩宗祭水
旱也四坎壇祭四方也山林川谷丘陵能出雲為風雨
見怪物皆曰神有天下者祭百神諸侯在其地則
祭之亡其地則不祭王為群姓立社曰大社王自為
立社曰王社諸侯為百姓立社曰國社諸侯自為
立社曰侯社大夫以下成群立社曰置社王為群姓
立七祀曰司命曰中霤曰國門曰國行曰泰厲曰戶曰
竈王自為立七祀諸侯為國立五祀曰司命曰中霤曰
國門曰國行曰公厲諸侯自為立五祀大夫立三祀曰
族厲曰門曰行適士立二祀曰門曰行庶士庶人立一祀
或立戶或立竈大聖主之制祭祀也法施於民則
祀之以死勤事則祀之能御大菑

則祀之能捍大患則祀之及夫日月星辰民所瞻
仰也山林川谷丘陵民所取財用也非此族也孰
能社典論曰祭神如神在以上の聖謨をよく考へ
て儒者はかの神のを作するものをばいふとて
これはかの神につくるまつる天法や是祖の鬼神を
祭ばかりや日本の神々の禮法に儒の祭祀
の禮はおひうをひたることわりを上三社乃神
祇の式に儒者の神のよつくりまつるかりふ
くるをひろへば石櫻之齋かりとなる強
ひてこと義あるをやはりまつ

よはそれ位このおそれて作法あれだ
をなりとて天秩の祭祀禮はよく考あり
戒して作すべきの法はよ一みていまるる
佛者は神のを作するを雜り雜修といふ
仏は六通神は通をぢつくるは拙作なるべ
神之向日出生の義をつ屋之儒乃理の
如極くることだらなりぢことにあ人元の
ありでなるすくはへども日本の佛者
くはうこをひがくらえとなはいで
所義曰それは道のをくるなをわきまへ儒

数の禮法をいふべきなり。実の所なりとぱんすれ
ばやまとかたりぱ。本儒道ハ天竺の神道なる故
よ世界さ、門舟車ハ人力の通する所天
の靈優不地の載所日月のてらし所。家家のか
つる所。血気ある者の俗なりの所ちく儒道乃
おこなつまあと云すハなくハ儒者にのとる所の
礼義作法ハぱよりぱ。なにもり人よりてその
俗ハぱおこなつねものあくハ儒者にのとる所の禮
義作法ハ大方周の代より制作やハ禮義作法
をぱ。ちぐ〳〵ぱ。日かまくなかくものの

元おこなのあるハぱ。ちくハぱ。なくハぱ。ひ俗ある人の元
おこなひたまふとても。ありの俗よ。あのたがひ元
れこなりしまるあるハなるハぱ。大唐すて元おこな
ぬとそ。もすこしつ。損益世すてぱおこなつれね
ば程や伏羲より周の代よりて代その聖人制作
ちまふ礼義作法を時代ハ久くお亜して中
庸の道法なれども代ハ乃ちぱうて大色不及
の弊ありて損益なくてハぱるハぬるやぱ。ちの乳
母よ。ぱ世通用の道法ハぱすくなくハぱあるとても。
するでく禮義作法ハぱよりぱ。なにもりぱよ

まくつくものなれば一しれの法はよすぐれ
ば仮に義法をもて大よそ夏の代や殷の代よ
夏の代乃禮義作法をおくるあ損益一周の代
まもまこ殷の代乃禮義作法をおくるあ損益
一代まふまくゆんあるべし孔子こゝ指のみを目
あくにせぐれば世あやまりぐひあるものあり
儒者ふのまる法の禮法をすこもちゐれ
ゑ所といふとも世あこなふ所とをよと儒
よ於適當捨ゆの乃なくば儒乃をたこなふよ
あくば異端やそのおこなふ法所に於直一
こもそれんに名利の私あるハ法をもくふ人と云
ものあくまるの儒に法にあらびだとひまつ法所
儒者よのまる正乃禮義作法よりぐひひてもを
ゆ中庸の天理にあくりそれん私なく欲
乃人情よりあるひ者ハ儒法をひ者みやかくのこ
とく禮義作法をすづまつ実の儒乃をおこな
ゆよハ行ふまくもあくこなひぐくきのおこをも乃
あくに素夷狄行乎夷狄素患難行乎患難
君子無入而不自得焉
仲之日あくにまくの儒乃をおこなふ工夫ハ

やうに仕てるるやうくはたらく
源義曰その工夫は自慢の浅氣名利の欲
心をすて同思雑毒の毒のあをりそさぬ法の源
をすまし全孝の心法を受用する也拙僧第
一とは世界にまゝ後義作法は古来の
教外別伝をかとして伝るも圭角なく自ら
たくぬやうよ元ちい心も作法うやく〳〵徳
地を守りかうそめよもべよあらそふ魔人なく孝
情なる伝の法を指よ入くたとめおこるひ親ハ
恭りをつう恭よつとく出義どうげまりより

仏や伝る人の老たる人出たる人などよく
うやまひ友たちにたのもしく義理をたく先
第代君ハ友茶をおこなひ妻子ハ義為を
かどこんべしかうのごとくにおこなふと傳たを
おこなふと云やかやうにおこなひくさりう
ある所ハ世界のうちをまはるまゝにくしらく
仲間しそはとあおこなはるべきやや
体元曰ふやうよくく今時の拙よく所まれのかと
をそまあ家のまねをめさるもの理にかるひ
ナるのおくは産業

昭義曰。信儒の作法ハ。孟軻の門より。八ハ行とも。引
篇より及ぶべくして。日ひとその信儒ハ。ひとみを
そらさずぐハなるぬ。細あるてのみてらんな。
高儒ひとみて。偏じゆへハ。中庸の作ひとぶた。
うなひ人ハかをそらしてもらるるかるず。泰伯ハ。
孝りのために。髪を剃。身をあたまひへて。
もうるを。孔子。泰伯其可謂至德也已矣と。嘆美
し給ふかをうち。身をあたまひをかめ給へ
おわるべそその孝道十分にのよしてそ。おこるひ
ひまふ。ものひとひ中庸ひるひうるをやめ

給ふなり。此をもつてやう。泰伯の孝道も
なく。中庸に。かのふべきを。義理もなくてかをな
そりて。髪剃髪ハ。泰伯し剃髪とおそるる
なりなどいふる人あり。これハ。舟に刻りて。剣をもと
むるの愚癡よわるずハ。鳥を。籠と云まどつた
偏人なるべーんに。仁義の。ちかく。まこ。仏のもと
むるをそでもなくて。かをそうつを。身をあをうて
をまつ。ふん。髪ちりひとを。色のあらくいんり。利
歌ふ。くゑりをむさぬ。ん。ためあ。産業かをそうを
をんためをかみをそうて。中庸の神理をそむ

くものとハ欲ふかくさかに人とやいはんきつと傍に
とやかくいはんそのことをそしりうるところなりすて
吟味して八是非の真実あらはれぬをまかせて人の
わくともそる不のゝ心根ハ道世のためか何れもかそく
考へて評判すべし只それうらへの〻のかたへ
よらく吟味評判するハまよ人数頑夫乃あさましさや
それのことよおゝず何事の評判めくくもこゝん根よ
て吟味せざれバ是非のあやまりあるをしれて以
これよ付くをくふ[illegible]わくさま人やとくきたらんありしむ
し大唐よ盗跖と云ねもとくあり同類数千人を
引卒しいかぬ軍と号しあまたの里を
やぶり強盗して人を殺するを事ともせず武
勇のもの挿比類なけれども名大ねとハいはすし
て大盗といふてやしなはくそのかねの熊坂
も盗跖がごとくふりかけ主道分剛強なんどの
あれども武扁などゝはいはずしてねたゞ人と云れし
かりそれけれどそのかへりハ名大ねか武扁者の
かるましひともおそるましけれどもその心根ハ
ミをなすとさる事なれそのゝ心根ハ盗賊と云や
並の皆かくのごとし。よくよく作過あるべし

侍従曰。美の佛法とは。名利の欲をも
捨て第一は工夫なり。欲心なくして
色のなきをすてたるを。欲をすてて
世の中のをもひ。やうにねがひ
佛義曰。それ佛氏偏僻の義に。釈尊の天子
の位をすて。龍居士が財をすて。一ごとくを
欲なりと云。何をかひくあやまりつ。疑
て。佛法のはやうよりもなくて位をすて
財宝をもつるを。欲なりと云。ちがひの欲なるこたへ
くし。大よそ。ひやうの位よりある。欲なり。位をも

つるを。欲とし。財宝をたくはへるを。欲とし。位
宝をもつるを。欲なりとし。ありはばまの位を
をして。位とこのこと。財宝を貪る。のろくを
拙に。凝滞して。便利。指択の。私ある。なり。
人のんを。良皆。敵。迎して。意必固執の。私を
さしはさむ。富貴。貧賤。死生。禍福。それ。天下
のあるを。天おそれ。清濁。美醜。おのく。毛孔
毛。指択の情なく。呉満腔。満目。一要。皇極乃神
ぐりなり。なる。友に。位よりのがれとも。財宝
なくなるとも。欲とせば。位とすて。財宝とも

とも、ゆゑ、欲ともせばまし。欲ともせば、兵天乃若。神
理にそむくを、欲とす。高とす。天乃の神理
なるを、欲とす。無高とは、神理よりおこれば、
天子の位よりのがるも、神寶をたくはうも、位とも
はるも、神寶をもとるも、ゆゑ、安や、神
理よりそむきぬまば、天子の位をもとるも、神寶と
もとるも、位よりのがるも、神寶を、蓄へるも、皆欲
や。高や。欲と。無欲と。無高とはおこるなり。
の品はあらず。只そのんの根よりおのをのなれば
ゆゑ、侯なるゆゑ、無欲や。無高なると

あらひくるぶしるはぱらひくるぶしるはぱ。凡夫のんの。
たは異端偏僻の法なり。釈尊のんをさとり給
れたくば、王宮を、擅、特霊山とす。寂光浄土とす。
天子の位を。摩尼珠の位とす。衰衣王敷を。麻
衣茶座とす。禮楽刑政を。従法として前生を
洗波ぬぐるべきはなはだしい。ものくこて。王宮をいとひ
山に入。衰衣王敷をいとひ。麻衣茶座をこのゆめ
されるはぱ。何のるんぞや。良背敵、逢不相与とき
玉文帝位何そ。ものをけがすんや。山中の静座
何ぞ我とまさんや。衰衣王敷何ぞ。ものを損せん。

麻衣系座何我系ぞ紀らくせんや。王氏伝曰
曾是泉由浅焉堯舜糸養生豈有拙英屋
如天高林山伯夷皆歓亜不相与の之味を絶ちよ。
あらゆる堯舜は禅授湯武の放伐られしを
れこるとあるのまハとも有れ。そのんよ。
歓ずく。潔精微の神理ハ浄ありて。
中ハ天理よりあるを。歓とし。
こなるハ邪にあらずして。
あらばまりてんよ。歓あらう
なしぶるハ大歓とこしのかりうれしいハ歓なり。

潔精微の神理ハ浄ありてそのあり中ハ
天理にあらずあるを。帝堯は天下を舜よゆづり
治ふも。帝舜の天下をうけたまふもまた湯王の
桀を放たまふも武王の紂を伐て。天下を救治よ
し。皆歓の活りなりうらまく堯舜湯武より
歓んずるくおこるひ治りぐ皆貪歓は高りや。
天下は授受取弔ハ。幽極廣大なるものやこれ。万
ものみれかくのごとく。一義を人ハ人ようと
くもぶハりちハれるぶるとあるや。儒者のん治のそ。良
皆歓無不相与の聖人を猿とするあり。天

まづ下ハ庶人に至るまで身をまもるが道の本分なれバ是を
さりとてハひとりの私欲を去りがたき欲といふ
ものハ一様ならずも我理にまかせてさはりなく
まもるべき道をおしへ玉ふと欲とハ
此欲をまもることハやむことなきゆへに世の中也。
侭のさはりに迷ひまして学問せぬ人を
生付蒙昧なるものハ不義のたくはへとはやし
みだりにふるまふものなりまして学に志ある人をや。
利欲に私欲と形気の欲とのすてかりなし
私欲ハ貪根残害を以よからぬことゝ

もなきさる知恵を貪るやうの欲ハすてやまき。
ものなり形気の欲ハ酒色にふけりおぼれ又ハ形
の便利をもとめもとむるやうなる欲ハもとめ出てさも
のなり無欲して欲をまもれ工夫なんの一念おこる
ところ省察してからさるの簡要まそれば工夫
を慎独と云やうなく体認あるべし
一　御文田先生の教を承候ヘバ利欲をまもる
事ハ容易なれど名の欲をまもるの世間の外善
をあらはすものへも気随になるまで作法あ
くならんと思ふハいかで

所為日ごとれハなくなきゆゑ
くるぶれハ一位もりてハいさぎよくハ細ハ名とこの
むものハ衣寒をむさぼり食をぶ給ぶ
な紀利欲ハ[illegible]ものハ功名の土をハ
の位と定てハ性命ハ学に志なく義理をもち
守らざる人ハせめて名ハ利欲のもとき
ぐるくひまら儒性命の志なく義理を守らざる
人ハ学を何ともれもつぬと紀ハ必義理にもりて
作法あるくこまん業人ハ利をハ人ぞのん
きこと人ハ節井ハ必ハ味をぐき

ものなりもとれども[illegible]ハ学ハ志なき凡夫の上
ハ味なら人学に志しぬる上ハ味ハまぐ名
別や夫名ハ実乃賓とこゝろ
ふおこなふ実あれば名ハ[illegible]
ハ人ハ実ハ形なり名ハ影なり名とおりひ名と
おこなハ名ハ名あり業舜孔孟ハ[illegible]
ひ悪をおこなハ悪乃名あり桀紂盗跖ハ
れなり名とこの悪をいしハ心兼桀紂
ハ悪なるあにて名をかめ[illegible]
みきふハ善古の[illegible]

いさぎよく紀士八こを名たたくあらんし誉れそんへす
とこの先ちをんの行ものをこれをぬをいくむ。兼
桑のを始よりくて。り欲にけがれてきてさる
さ凡夫にぐくぬまで。伝ようられくもの
法ぬくあくびこ高高をまのわさまをもくびぬ
信のあやまりに習をまりて或ハをすくまく
当とし。或ハこをそもさて。高をとるあにその
ん根の始ハ告をこの悪をにくむ。兼桑のを始
よ似くれくもをて。をんをくまし。性命をうこ
あをんく欲のをくくハとあれう。利欲とぬを欲とハ

清濁ありとゆへくも。天性をそこるひやうを孝
義犬の罪におちいるすハかりなさによりくを
と。利との欲を牛角にさくいちさるものや
さて名の誉に高高を未の差別あるをとくを
さまへされで名の欲をよてくんとをの志ありても
孝子をげもしをて。所要者る。英雄者る忠
臣の誉をを。一すの誉をあくも。義理よりるひくを
ぬを。天理高実の名と云や。異端曲学の名乃誉
をを。一すれ誉にても義理よりるんを。汚俗妖妄
の名と云て。彩をれをんとをるをや。妖妄の名を

このむ心はもとやすくらくも真実の名とこのむ
心ハ報をまつをよくはかさまんされバもとてかゝくはらく人
不爭而不驕の位にてかつ聖賢君子英雄
孝子忠臣の名誉をかつするにても義理にかな
ひゝるかまれハみな末と驕とや言名誉乃根
なる形とハその人と諂とや聖賢の人とい
まことに聖賢の諂をかよおこなひにして
聖賢にかまれをもとんするを求めんに孝道か
くなれにまかりをねてなりにして孝行乃誉をかを
むるハたとへハ形けさにこゝろに実をかりとむるがごとし

狭猨の水の月をとらむに似てかもそのうへ功
ハうちに連城の珠おもほさりて王公乃位にも
かえざる名誉の苦楽わるゝすとまさらに世の凡夫
の理もなきを倍後せがまゝをもとめ禄をひいてむ
禄をこぐす身をくるしめらく楚女の飢をとをと
めぐく餓死したるごとき紀せらるゝまもひ其下に浅名
し名の欲をとまつるにハ是まもひ心座敷さ念と
かちるべしかくのごとくハ味併歓して名の欲と
まつるすれバ天理も苦楽をもとめ氣随とま
されバ作法を正しくせんへかなれハんかく学に志わく

ものハ名をもはるかゝとく乱随れたりかたく佛
法よくおりて利欲にもひかれず市井の凡下も
ひかれず君子中行乃凡よ入らく君子のかまのれかく
せんしてまをものゝとくに名利の欲よ溺るゝ
間思雑念を一念の微に省察して独を慎で乃
そきさらるす第一乃要法まそは
仲元曰楚女の窮和とりとめて餓死しつゝと
云るハ何ゆゑるすまくば唐く仏
師義曰それハ寓言の故事にてむかし大唐楚国
の王こうれかそき女を窮和しめられければ中乃

こしれかとらく宮女楚王のおもひつきたまふまゝき
るかぎりあらしひ。含ぬをくふびして痩せおとろへしの
おそくなるべきうと断食して、かつく死しくさく云
るや。世間の名をこれく誉をもとむる人をたとへるに
を時代の天子諸侯のこゝろにたまふの。世俗のおもは
ておいてまもおのおぼえ是非善悪のまえをひか
くえ時に阿諛するゆゑに、人の色をよくし
言を巧にして義理不義をわきまへず。一向に世人
の誉をもとめく恰も楚女の窮和をとりもとめて
餓死しつるに似たる故に。寓言の故事をかりて

一 たとへば学に志ある人は戒むべきなり

仲元曰習染人をいふなるべし

所義曰習染人とは世俗にいふ

中なかくいもいびきなどいふことなくあやうし

まことに人なりたとへば水にそめ

交茶に緑青をとけばそれ交青くなるごと

しかれども茶の色は赤も青もなけれども茶と

緑青とまじりあひてかくのごとくそれこ

とく本来人に好悪の心なけれどもそ

れをたつる不の風俗にあやうし

まことに好悪の品宜色にかりあり学問芸

能ものも習ひあり先本人乃稟的をよく考定し

上あるべき習人とは味してかちさるべし茶とをき

布をもて色に書ぐるに水もよくすまぬ迷ひ茶

を下へ流すべきもの丸本人あらはるるのみなり

て学問芸能の人乃水はそのにごり正まりやむ

ものなるべきなり仲元曰要をそい

仲元曰間思雑記中に入いうやうなる会合にうそ

所義曰さしあたる悪会にあぐれども思ひく益

なくぷらけもたるさうをぷうをしく思ひ申て
天竺のぷらくひとなると同思ふ云や意ゆ接
物の際ぷ名ある不と分ぷ思意する時に工夫
者一ぷ成他の会乃ぷりまぜおこう感通のさう
ふなると雑意と云やぷ二つ分ふる病ふて邪
て克治ぐふさのれなりよく省察あるべし

一 体元問仏術と学ぶ人ぷ生死れ益あり仏
乃と修行する人ぷ成仏得脱の益ありと学ぶ人
儒乃と学ぶもさうなる別段の益ある事
不分明

一 所為問ふれ難ぷ異端れ説と問あやうて
かふるゆぷくひ孝弟易地ぷ修ふぷ生死
死坂のふろう掌と指ふく分ぬるふぷ花角の
儀論ふ及ぬゆ方ふ迷ふ今世の人ぷ多分ぷ
疑あれ方ふく仏佛の乃ぷよりふ迷ふ
ふふふ此の仏教ぷ生不死の術も佛家成仏
得脱の修行も皆異竟ハ一心乃工夫や仏家ふ
ふ修心煉性と字ふ名ふ仏佛家ふ凡人乃性と
字ふ名ふすふ工夫の十分服膺する不の人性と也
生不死と云仏得脱と云や二氏ふもに元来の

灵光とん性の端的として元神の妙理をさとり
ゆす彩る為にそれ及性旅乃中ゆの君子より
一位や儒家よも一心の工夫をるとし元神 名
神魂と性の端的とし窮理尽性以命を宗
名とし工夫十分旅拠する而のん性を重神。玉
漆密と云云宗名れ端的も四光大度のん性
も仏仏よりも一位まし たる和あれば生生不死と
指而の益も放佛得脱と指而の益も一位まし
たる益あると知べし 性理會通曰易曰保合大

子根。一團真理實氣充宇宙而無餘歷浩刼而
無改皎剛柔生造化生萬象摂三才沖漠網
緼融和純粋若能保此氣而不失合此理而不違
身同大道如点雨之滴海渾滄溟而共存心契
天真猶片雲之没空攬太虚而同久利通而無
滞礙貞固而無変遷故天地終而壽不竟日月
晦而明不虧故曰至誠無息不息則久久則徵
徵則悠遠善保大和者誠道之至妙者也聞
者疑之曰性即理也命即氣也人之性天地之理
也人之命天地之氣也誠能以性合天地之理以命

會天地之氣即天地之理自性也天地之氣自命
也理氣無終壞此性命亦無終壞譬以水投
水乎何可竭以火投火乎何可滅由其躰大造
而超小劫故不以天地之成毀而成毀獲大身而
忘小形故不以軀殼之存亡而存亡謂之盡性
至命謂之体道同天謂之至德疑道此中大有
真樂盎然春融熙然宇泰既利且貞活潑々
地即易之黄中通理正位居体美在其中暢
于四肢発于事業美之至也此乃儒教中不死
之神方長生之下術不可与守空寂而坐枯禪
毛精竅而希昇舉者同日而語也この賢範
とよく体察して儒教聖神の深意息の位
より仏佛の修行にいたるまでもとかねてこの
ふかきをはかるべきなり迷ひとたちまち覺し
保合太和なる心法と化するのうむべうす
全孝の心法や
体元曰全孝の心法をいふなり文用の体
師義曰孝經曰夫孝天之經地之義民之行天地之
經而民是則之又曰天地之性人為貴人之行莫大
於孝孝莫大於嚴父嚴父莫大於配天又曰孝悌

之至通於神明充于四海無所不通詩云自西自
東自南自北無思不服曾子曰夫孝置之而塞
乎天地溥之而横乎四海施諸後世而無朝夕推
而放諸東海而準推而放諸西海而準推而放
諸南海而準推而放諸北海而準詩云自西自
東自南自北無思不服此之謂也又曰衆之本教
曰孝其行曰養養可能也敬為難敬可能也安
為難安可能也卒為難父母既沒慎行其身不
遺又毋惡名可謂能終矣仁者仁此者也禮者履
此者也義者宜此者也信者信此者也強者強此

者也樂者自順此生刑自反此作孟子曰仁之實事
親是也義之實從兄是也智之實知斯二者弗
去是也禮之實節文斯二者是也樂之實樂此
二者樂則生矣生則惡可已也惡可已則不知足之
蹈之手之舞之禮記仲尼不過乎物孝子不過乎
物是故仁人之事親也如事天如事親是故
孝子成身以上聖謨賢範ゝらく勢慎して
恭慎の親切真實廣大高明無上無外むそる無對
ゝて若乃ふかよ慎もけくたさるさるをぬくり
無物ゝ於ゝひそれおこるよ而ゝりとふとも若ほ

の天まつりごとをきねまいパ天威のゆるさるる所不孝子
のたのしさうるおなりたるあに孝弟に不愛其
親而愛他人者謂之悖德不敬其親而敬他人者
謂之悖禮と戒たまえり此くのごとくなる孝德全体
の天まつりごとをうるおすに工夫を全孝はいかなる
全孝のんはその廣大言ひがたしこれ中庸に通
六合をとりまくるといへども弱而ひ中実ハ剛なる
ごとくなり方球にしてこれにこるふかハ的法
あり的法とはふするなハ良知を擴充して独と
慎よあり良知とハ赤子孩提の時よりその親と

和敬一つ最初一念と根本として天地の分別
見聞を云実よりもまつる通性の知を云ふ良知
磨而不磷涅而不緇の実はいかなるものなりや
不知の犯まれんもはるものなりたるを
よく良知を工夫の擴充されなり独と慎とハ一念の
学ハ致知格物の工夫これを擴充しよく省察の時
まつりおこなはんに良知を擴充するなどの私欲おこる時
て名利の欲ハ人間思雜交などの私欲おこる時
もそれなりの方法をこるハ人間なる不孝の罪人
なりて通のりてハ天極真重の罪責をこうむる

して八ツ刑員大の罰刑と定べき。麁んやとおこれ
情実為によ克おこく。神明にお通すも。孝道の徳業
とりくしる工夫を三や一合れ西んまそ行やの方法
こころひをつるとくこそ細八者孔曰身体髪膚受
之父母不敢毀傷孝之始やこれ聖謨のんハ我身こ
ケるりうをのハんも性を身体も毛髪も皆親ハ
んの性身体毛髪を受ることのなれハ身体髪膚
もかの系身体髪膚まあらば親の身体髪膚や
身体髪膚のうをおこるんの性も。孝んの性よあらば
父母のんの性やおうる有に。我身体髪膚をそこ

なひやうる、即父母ハ身体髪膚をそこなひ
ふるなり孝道性をそこなひハ身をもちい
父母の道性をそこなハハやがるものなり身体髪
膚ハ器うりていやしくく道性ハ尊とうて貴こるも
のなりハいやしきを身体髪膚をそこなひやがるも
大悪逆大凶道や身体髪膚のまもりを天乃ミコ
尊ハ道性を尊ぶ大悪逆大凶道
やこれをぬうふわきまへくんようく守不敢毀
傷ハ孝道を尊ぶ始なりと数たまもやはり聖
謨をよく体ふとれば名利の欲ぶ人の間思

雑道ちごの。牧念を。完すてぞ。て。孝徳性を
うこちるかしこさハ。即ち父母の徳性をそこなひやぶり
すぶらめや。孝弟。この言ハ孝弟。念爾祖聿脩
厥德とぶ。ちうを。孝弟。孝弟。ハ。
なまりんなりうくく。仲尼。
侍立曰。身体髪膚。をうこなひやぶらぶ。孝の
始て。庶を。軍陣。ハ。
身ハ不孝。ハ。ハ。
即義曰。それハ。大なるかをこなひそ。ハ。不義ハ
なりうにぶ。ハ。

孝弟。身体髪膚。受之父母。不敢毀傷。孝之始
なりと。ぶ。たまふ。毀傷ハ。血肉の身体髪膚
うこなひやぶるごとにきわらハ孝徳をそこなひ
ぶるや。言仁とのこまふ。害ハ字のこころや。血肉の
身体髪膚のことあらハ孝徳ハ形体のすや
仁者人やとのこまふ。人ハ字のこころ。形文天性や。惟
聖人徳可以践形と。発ぬめられる。形色乃字
のこころや。ハ聖賢範のハ人ハ。身体髪膚
なり。天性。仁孝の凝聚なるすとぶ。ふとものや
孝弟。ぶ。身体髪膚。これなるこころなお

天性仁者の名をかりにまりの勇におこるときは
たとひ血肉の身体髪膚とはそこなひやぶるとも
も不孝にあらざる者なりや血肉の身体髪膚
とはそこなひやぶるとも天性仁者の身体髪
膚をそこなひ殺身成仁とぶる
者や殺身成仁とぶる
ふおこなひて悪道なるときはたとひ身
を全して毛一すじこなひやぶらざる者
なりにあらずや血肉の身体髪膚とはそこな
ひやぶらざるとも天性仁者の身体髪膚をそ

こなひやぶるる者や曾子曰戰陳無勇非孝也臣
範のごとく軍陣戦場にて武勇をつくし死
して軍功をたてるときは疵を被り死するも孝
なりや武勇をつくさず軍功をたてざる所を
猛臆病の悪名をうけぶるとも不孝やとぶるまじ
めなり陳の卿曰若有曾子之心即龍泥之剣首
分製与磨手磨足一般不孤則花蕊鬘下亦与切鋸
傷摩何異これ論語に曾子の孫の河に乎子を呼
て啓予足啓予手と云て詩を引て不敢毀傷は
じめとぶるを記せり曾子のみれなること

血肉の身体髪膚をそこなひやぶらざるをいふ。
天性仁孝の身体髪膚をそこなひやぶらざるの
とおしへめされこそ。孝経の誦のごとし。もく
孝経章句の儒者曾子のかきをさとりして
只血肉は身体髪膚とそこなひやぶらざるをか
つて。謙説するにより。陳氏は発明あり。此説
のこころは全孝の人法とよく更用をれば。此
干は謙てもにめされて身体髪膚をきりやぶら
ん首ふ刑裂しるも曾子は是を聞かなて一毛
ともそこなひやぶらざるのとおしへめされしもだ

なり。孝はやぶらしまらぬ。全孝は人法をよく更用
せざる人をば八十九拾まで。斜老くの孝のうちに
て。病死して。毛一すじもそこなはれとも。力をつく
きくれ。誠のそ。初つ迄わの刑罰よおひしちもちと。
おれど不孝なりと云義。やうく体無わるべ
体元問曰全孝の人法をよく更用仕ふ。良皆敵
意の聖域へもやうく。
師義曰心学は凡夫ちの聖人よ。ゑみちをれば全孝
のの人法がさとりの良皆敵意の人法をめてはの
りて。実はあるすべ。
なりやこれをは体工夫とこそ。

人生は縁的ハ固一度きれども交用する人に告げ
義大聖神の教るゝ所ぞ。ゆゑに一たび人生
大海や交用する人ハ暗を切る人や行とゆく人ハ
老幼男女道ちがふ不逢者の別あるまじ。
路ハ多し。大海なるゆゑ。全者の人生ハ
交用して得ることあるまじ。其人ひろく雑群して慶
大ぞ。精微中庸の教ゝ服膺して人の子
なりてハ善に止まるべし。人は君下となりてハ恵にと
まるべし親しとなり
てハ仁に止まるべし人の兄となりてハ恵に止まるべし人の弟

やなりてハ恭に止まるべし人の朋友となりてハ信に
止まる富貴に素して富貴を切ひ貧賤に素して
ハ貧賤をおこなひ夷狄に素して夷狄をおこ
なひ患難に素してハ患難をおこなひ境遇に
必の累なきなり。水のなかるゝごとく心の安く。静
なるなりハ山の定まるごとく。暴君汚吏も志を
奪ことなし。ゆゑに天災地妖も殺しあたハざるもの
なり。ゆゑに形胎弛熟の所より脱胎形化
して聖神の位に登るべきハ天地とその徳とあるを
日月とその明とあるを四時とその序とあるを鬼神

ゆゑ、そもそも舜は堯を表して、彼に上下を捨てしむ。そもそも
孔ゆへよ。南面の位よりして、帝堯は君たるや、北
面の位にありて、帝堯は臣たるや位とはず
て下にありて、素王聖素王の位なり。孔子曰、夫聖
人之治、又何以加於若乎

莊周巻下 丙戌冬

魯國の儒者、莊子に問ひて曰、魯は儒者たり。
先生の道を学ぶこと久しく、莊子曰、魯は儒者たり。
久しく、君子たるべし。魯公の曰、魯國の
人、皆儒服を服す。魯は儒者たり。莊子曰、
儒服は儒者の裝束なり。仁義は儒者の治なり。裝束を
もつて、仁義を儒服とす。もし仁義乃ち死は儒
者ならば、仁義乃ち死は儒者たり。
もつて、仁義を儒服とす。もし仁義は儒者たり。
乃ち愛用すること治なり。もし夷は裝束を表する人
なり。もし仁義の心ある人、夷は裝束を表する
儒者たらんや。伏犧神農は儒服を表されたる

儒道わすれかゝるがゆゑに天下一の儒者もそこなはれ
魯國の人を儒服をきるといふたゆゑに儒道のものを
皆儒者のみなれるゆゑ儒道ふるくなり
くゝるに儒服とは何ぞ儒者の衣服なり
制とは何ぞ誠に法なり魯公莊子の言に用ゆるこゝろ
を法とは何ぞ法とは何ぞ儒者の衣服
乃ち儒者のみにもあらず一人儒服をきるものありしかば
國事を問ふ時ひとり儒者のみにもあらず
所謂魯國乃ち儒者を儒服をきるものとなるべくして
魯國乃ち儒者をこのみ儒書をよむ人をとゝのへ儒者をきる
ゆゑに世乃人は儒者をきるものとなるべくして
乃ち魯國乃ち儒者をこのみ儒書をよむ人をとゝのへ儒者をきる
ゆゑに世乃人は儒者をきるものとなるべくして
乃ち文学は藝なれば物かるべきよ
ゆゑに世乃人文学ある人を求めれば文学ある人
ても仁義の道なれば儒者をきるものなるべし凡夫まあ
一文不通乃人なりとも仁義の道ゆゑなるべし凡夫
文学なれば儒者をきるべし所謂かれたいたる乃時なり
あやまりをなんぞ儒書をよむべしと学ぶこゝろ
文学ある人と儒者をこのみ儒書をよむ世人の心
見ばさきなる小人なり学ぶ物なるべし又は学問なるもの
さきなる士乃ちまことなるべしなるべく
乃ち儒服乃ち儒者をきるものとあるべしなる莊子の
なれば人なくして学問の本意世乃ちかゝるべしかゝる事

下の大不幸なることけいく、
凡此下十三篇書物あるて又才なれるものハ
乃一篇の後よりもく丁寅の年と小夏大同故小冊に之
侍元曰名利ハ人あらく学問とる人乃を蓋なれるものこと
あくハさるこれ利乃ろ
四ろろ人乃蓋なれのこふわ寸人ハくもろ
儀いかりのならゆれわるをいく 仲乃曰人んのまこく
一と指ろく知あるもとろなるも自満乃ふなれを
まれなりまの満ん明法とろまりまぐいとろ称く
くせものふしそろまりびの又大ろ見ろうれ
こまろこれハ易ハ天道虧盈而益謙地道変盈而流謙鬼

神害盈而福謙人道恶盈而好謙尊高而光卑而不可
踰君子之終也と言ハ盈ハ高満甚しくこの道と見と
して自用ハ万事ろ乃ろとなくこ人とろろしらわるごろんせ
謙ハ満恭自卑ろして自反一独と恃こ人とうろこず人
とあろろず人ろ言となくこ満也盈ハ天地鬼神か
そこなハ指ろ形ろ人も又見と恵こ謙ハ天地鬼
神乃保祐一治ろ而ろて人を又見となこわる実理と
ハて吾学乃盈とこく謙と称りん事とろり治人聖
漢ろ法ゆ人ろ満恭自卑乃四字とハく初学ん法の第
一義ろすれ四字乃法と用ハ満んとのぞ死指ゆ五所ろの
まろころろこく乃みごさこなろこく明法曰こみ

四つの不なりの五りの仏法ふうとどして満んとの
そうされハを学さろ時満んの乃ここならて明白
ふ時くありぬくのごと死れ満ハを天地鬼神乃祭法ふ
さろなりゆへ人ハをハそく行我いかりのようなるゆへ人
も又見と恐ひ見と時和りよ魔と来とといるうちとで1
時而ふ魔と来しぬ世代行事も異風とうの三人といけ
ば出ことをうず天下ふ我とうず為さ来あ一と人もゆう
さね高満とけあふあく歌あやくこうぐらなうとけ
ふを交ろとうとあがどうかるとそうふをとのしと見こう
人と恐と寸威ハ世ろけまし一ろといとい猫りあると我
うの三戒ハ甚しこと死ハ氣乃ちぐふくこもあうと見こ者

つかくれぶこと死乃人学問せばうこふあもあまこ有と以
ちこうと帝ハと発死こと行ばと見ばくそしふ行
ゆとうり学者ろくれふと死人あ世代学ろうこと海
して満んハうくつまなうる事とり死ま人どて行ハなるか
ふなけしこうふされハ大禹ハ聖人なれハ毛乃の満んハ
有ましそれ伯益禹と賛けく海相換道要学と以
ゆまして賢人ち下さ海乃人ふぐくくも仏戒と言ふ
そんや周公乃才ありても満んあしハ方ふそうどと孔
ふの乃こまハも高満の四海乃為こ害の乃事といま
の孫人ふり学問ま志しあう人ふ云り為子三学の人体
魔障と紙のうさ拝ぶ死事第一乃点場なるふ利

乃ちうれなく道小志し有こゝ人を高漢乃西湖とのぞ紀
とゝ乃ゝ小海乃紀りとゝ川く勝西小魔と来し其他西魔
小海へ乃こゝなりずとうゝな紀学問ゝきゝずと付ゝ事あき
まくなけゝし我しゝ人も紙いまゝしひべしく
新人と粤人と郊と鐵人こゝ紀書軍乃たゝ汗い大将ハ冉求也
愛周父湖ゝゝ樊遲右くゝゝとゝ小戦合くく粤乃左ゝ紀
軍しゝ乃ゝ左右ゝハ廿ゝ乃ゝゝ樊遲乃謀を用ひ冉求
目勝ゝと入くく齊乃軍と敗り甲首八十とゝゝゝゝ人ゝ海
小魯國乃勝軍ゝゝゝゝ乃共後季康子冉求ゝ問けゝハ今ゝ
乃軍功ゝゝゝゝ乃紀事ゝゝ乃軍法と学ひゝゝくゝあゝ
や仲ゝ又ゝれ付ゝる君問ゝやと冉求答て曰けれなゝゝ

みゝて紙ゝゝゝ小学ひゝゝゝゝとゝ人ゝ季康子
ゝ侍く孫とゝゝく孔子と問ひゝ孔子魯ゝゝゝゝゝ
仲乃曰冉求若季氏ゝ大将ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝずゝ軍功なくハ孔子乃文武兼備ゝ軍法ゝ志ゝ学ゝ
事と季氏ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
時ゝ人かゝゝゝゝゝれハ後世の文武とゝけて二川ゝゝ
孫あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
くれゝゝく軍法ゝ志ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝハゝく 仲の曰兵ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ天下乃孔と定めゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝと用ゝ曰度ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

まことの道となれり然るを其公小人ありて戰伐をなす
乃強国暴逆乃ひとびとをそそのかしたらし

問曰今乃世乃中に儒書をよみ学ぶ人多し儒者とは何ぞ
儒者とは何をもつぱら儒者乃名は漢土にあり藝
術乃ごとく小わざにもあらず 答曰始め儒者乃名は漢土
小わざ文学に興なれりの学ぶ人は誰も
ありがたき事なれども学文乃道をしらざる人ふ
てし仁義乃道なれば儒者とは何ぞ
孔子乃ごとく一文不通乃人なり仁義乃道乃なる人
を孔子乃ごとく文学なれば儒者なり
かくて孔子乃ごとく孫子乃ごとく文学なる人
より来りたるなり儒者とは学ぶと読けりと学問と云ひ文学

ある人ハ儒者となりてかせぎけるに又ハ世人乃師となり
それより外に学問を稽古して坊主又ハ出家などに成る
ほどの士乃志すまゝ行ハしきもなしとぞ是ほどまらく
あり学問の実義世に叶ハざる事天下乃大不
幸なる人也 問云学問乃中然世に叶ひかたし何ぞ
と天下乃大不幸なる事にや 答曰学問ハ明徳を明らか
にするとなり頭脳にする徳ハ我人の身乃根本なり主
人をはじめ主君より始て下人のこゝろまで
りこゝろ主人の心をうけこの事みな天理にそ
むきざる人ハ名利のよくなく親にも親とせず君とも君
とおもはざるやうになる人を知し人と損ずる所ハ利發者

党と成ひねわるくそひねりかひ甚しき時ハ主殺し親殺しと
し悪逆となせる人是乃方昔ハ明徳のくらきよりおこ
る是天下の兵乱も又明徳のくらきより起こる是天下
乃大不幸にあらずや 聖人是をあはれミ給ひ明徳を明
らかにする教を立て人の形わるからぬやうに給ふ学問の
とくの道人の為に四書五経にのせたる所これなり
問曰四書五経ハ世に流布して読む人沢山なれども
実義を明らかならずして世俗の学問をそしる
答曰世俗乃学問とそしる所ハ世俗乃あやまりにあらずと
学問する人のあやまりなり世に学問をきらふ人と見る
小学問乃実義を知らず学問に志す方ハまれなり多分

ものゝ事なるべし乃至又いにしへのそしり或はそれ乃至
久式三代を西一こうして学問第一義の
明徳とのゝしるふるまひ作こと分れ事なれを
ものを西くし身とかさむ事なり西一表裏なる方あれこそ
学問のくさむ事なら学ふあるを事と
なれ先学ふ歌会なれよりいく道のしるふあるを事と
又また人ごと流ふ先王の法典人若みれ逆と説く道と
世乃好格套と学ぶ者と作ぐめ世乃理学と説く人理
うを先とし西くんと西くんと西一方を修うんと仕法とえ
ひしふ西くれ来活潑融通乃部くくとくこと自己心
裏と目有ちくう明徳の学問を説くう主角自己

くうこと次第くふ人を和睦せしむるのふなりあるへあ
世代学問乃学とする乃ハそれ久藝乃なり世界れ
人を人とくく物ふうを出家いしやなるものハ学問の
なりとのるれそれこれいとしなれふあるすりと世界
乃学者人ごと凡情乃習俗あるひとく学問第一義
の明徳とのるかふりく孝悌忠伝のまことあるくハ歌人乃
れ学問世ぐうとなげさ者ハ活下乃学術乃紀とそうう
ひ学問とそ一部ハなれ乃ハこあること士ハ云ふ及ぶ農
人商人ふるまて学問なりて八分乃事なりとも
てくやとなるーさ事世代俗乃学問とそ一部とあるう
ど学者乃そ一部なり学者乃ま稼ぐ者なりもう俗

と我もし人を学問するものく色こそ世俗の学問とそ
思へと学て之成ハ服を立成ハ生くそのあや
まりの迷ふと出家事をわさまへど是とも聞くれを
学問乃実学と志しか紀学云い世俗の学問とそ心得
まりとも一ことにふくらそるる智門の法を人なるべし
問回一又不通あくも仁義乃明徳のなるべ人あるべし
こあ〳〵仕望人以下ハ人も学問あくして明徳といとしろ
ふとろ事あり中へこそや 昔日それもや文藝と学
問こあやまりそるる習ふもり起あるこひろり近学乃
先学ふ志こひくに仕命ハ道と学ひ問人と学問の実安
ちす文学ハ人その一品なるこれ文学乃紀大昔日分と

より漢学こそ書物なをれ公そく聖人の言行とをかと
し学問とし人なり世乃事ふ義とえう
ちる人乃紀こ所あるこ人ハ学問を愛ひく共
道とりのく人ふ志こて学問乃法と宮ひくくち
ひくこ書物とし学問の物門とこるなる人のまれつき
ひまくなし人文藝ハ務こく専用ひて法乃元へ之
学ひこ学専用なる人あり中ハ新乃人多俗儒となるて
又文藝ハ学ひ小学専用ひくん法乃元へ之極て専用
なる人ありくけどくなる人と紀先学ふ志こひ聖経
学問乃海明と学ハ文藝学専用なれ文学門法とて
学ひ乃事へあるこれ法乃元へ之専用なるふ

て和歌・連歌・俳諧の人々、こぞりて是を明徳と
ゆるすかゆゑ、是をこなたもかなたも
人愛するなり。されば文藝は道を助る器と
なれば、器なくんばなし。

問曰、大学の道は上天子より
下庶人に至まで、貴賤不肖の区別なく
婦女小書とも、事なるべからずいかん。

答曰、聖人の学問は、則その理の
以代変易なりて、精微のひとり聖人と
通じ、愚不肖の婦男婦女にも通ずるまで
書物の字義をよく通ずるなり。文字訓詁ふけ通せ
ざれば聖人の至言を学ぶべからず。

てんの成り立ちを解る事は、中古以来の俗儒の
説なり。和歌の文字訓詁は、よく通じ、ねまれ人の名付
なくてんの儒者は、表裏の読出よりして読
まず、ただ人倫の道を伝授して、是を聖人の文盲なり
と、是を聖人の伝授をもって伝授して、是を学ぶ人は、
あるいは、ただ俗儒の書物をもって、我明徳とのみ
思ひ、まことの聖人の学問をとくに性とする
婦男婦女は書物をもって、今時の俗学は
書物をとりて、ただ俗儒の
きらう書物さいそんあり。

問曰、聖人の学問をそれる事は

昔云それハ大なる心得そこなひあらさうそうれうの書
物ハ十三經なり十三經乃ハ孔ハのくしに成べさる信の
書七出なりと乃ハ人もとくに豈なり始うの法とそ後
ハのハうくあるくに伝うの易くあるくことなり史出ハ古今此事
義と考へ稽習播溢乃中派ととうるのなれハ能力乃あハ
ハうこと小説りのなりこあるべし　同十三經ハ行くそや
昔云孝經論語孟子周易尚書周礼儀礼詩經礼記春秋
穀梁傳公羊傳小雅以上十三部と十三部とこれうこめうら
同云十三部も書数多くて文才なれりの諸まで海
[illegible]　同一生学ひく道とうる人さ
書ハ終りとそ　昔云ハ中易望一部とのりのうく

孔十三部なれハ易とうく学ひそうう始た易經ハ
第奥玄妙のうく易乃人の孔人なうこれハ孝經
大学中庸とこれ孔学小ちうこうく学ひそうく人の道
晴小ちうく速あうこいた志ハ当ってと
先ゆそんかをれハ為ものとなすべし三書と学ひく能力
あうばこ力と能小ちうこう徒書と学ひべし極まる
能力あうハ十三部と諸学のへし十三部とこれ学ひ孫
そ道あうねこうも大なるあやうもうなういうとか
中庸十三部そかうこ学ひ時小成法乃人卓敬乃十
三部伝りて後都くの徒の人とくあり苦学乃
外ハうくあとうもわやまうなういうとなり生涯問学

をとり人己事とゐはるる勢あり〻く皆聖賢乃様にそる
書なれハ無用ハ書ヨ所〻ずず学ぶこゝろの出来数乃多
わよんハ成らくしべうすをく一向ハ聖人こなる人きこゝ志と
勵まし道ひとわきまへ自己心裏乃明徳と明らかする
業と申しへ一智識賢人ときくハ明徳とハ明らかにまる
三業あり観察一ハ五ち栽培二ハ内ち市法三ハ五ち法
三業ハ己れ自己乃ひさごとなりてハ内くハ五ち年生
修察乃功を用ひとしてひさごとなくハ二六時中
ほか業とをしてすなをゆるゝ和の業わるゝ人ずりあ
業なくハ書とをしてもしまちふとと五ち

第六巻上一丁裏

問曰人乃世第一ハ苦ひりとをひべきこゝろハ何事ぞや
答云人乃無常乃苦痛ハ何事ぞや
問曰人乃世第一ハ苦ひ
答曰苦とをくく来とりとなる形ハいん　答云学問なら
問云学問ハく苦痛と楽さを楽とゐる形をいく
答曰元来苦人乃ハんのかハ苦楽なるりのるゐを法後ろ
後悔ちるを六業まで乃ハ成りハ内くみるべし世俗も幻言
乃苦悩ハ紀をとをてハ佛ちるなをいをとがくれくんハ
ハ修ハ無来ハて苦痛ハ紀りのるゐ苦痛ハ年ぐをのを
ハいかくこびうる後ろ痛ちんををとを人ハ眼のごとく

眼乃外伴ハ手てあけ自由ふしく物ゆえ
の塵物なと目ハ内人へと死ハ手とあけ自由なる物
をうる事もあるうる事ハ人へと苦痛ハ一人へと一旦苦痛
ハうへ〳〵こハ人に苦物と深く去ハ外伴ハ人へ
て開閉自由ふして分明快活ハ人へくんの外伴ハ
元来安楽なれ共の苦物ふく格ハ乃苦痛ハ人へく
一学問ハ計楽の苦物とあるひとくて外伴ハ安楽
ハ人へ道なる人へ学問とくはとめ工夫業用ハ外
乃ハ外安楽ハ人へ人へ問云ハ人へのハ内ハ月貧銭勤労と苦
ハ富貴安供と安楽ハ手始ハ人へ苦楽境界ハ月なくて
伴ハ不有ハ人へいハん 苦 ハ人へ伴のハ内ハ人へ見ハ

云てあさましき悪なハ見ハ人へ外ハ悪ひ人へ
富貴と苦人へハ人へ苦見ふ人へ苦ハ人へ
ハ内ハ人へ明清ハ人へ人へ苦ハ人へ清ハ人へ酒
色財産乃悪ふ人へ人へ人へ人へ人へ
ふと内ハ人へ天下と内ハ人へ天下と喜ひ
と苦ひ人へ人へ人へ人へ人へ人へ人へ
ハ人へ人へ人へ人へ人へ人へ人へ人へ
ハ人へ人へ人へ人へ人へ人へ人へ人へ
とハ人へ人へ人へ人へ人へ人へ人へ人へ
苦人へ人へ人へ人へ人へ人へ人へ人へ
世乃中ハ人へ人へ人へ人へ人へ人へ人へ人へ

ゆるしあるべき事なり。すべて毛氏の論酒色財気の害なり。死ゆく人の天下をはなれ
ずして、酒色財気の害をはなれずして、書をよむとも学と業とを半るわれ半るよ。常に金銀財宝の事なり。酒色財気の害なり。
上天子となりても、業をすまずして、酒色財気の害なり。
もし業をすまずして、酒色財気の害なり。
供乃ち、なれし和漢の歴代の帝王、酒色財気の害なり。
これ酒色財気の害なり。惜しむべし。草飯菽食をくらひ、水をのむ貧窮の人、
凡夫乃ち、ふかくも社稷を忘れ、女色佛事乃ち苦しむ。

なるべき。農人乃ち耕作の勤労乃ち極なれたる人の
み苦しむべき。大禹乃ち治水の勤労乃ち極なれたる
その業を快活なるべく乃ち能実理と作業を
見て若業乃ち不知なれ。外れなれとわきまへべ
きなり。

祥同巷の我故樹先生乃ち傑出なる儒学者なり。
稼穡して田場の農方乃ち同志先覚の儒
刑儀とうなひ又文学ふかきなれば書の韜鈐
とを以へりすとなげきて業をわきまへ徒に人の
方とをかれとして無人法人と常ひ人師のれ
て法と兵の巷上下と若し法人吋小寛永十八年辛

己乃業師無師乃学会彩なるふたつなりけく此問答
録をんふるかぐ沒西乃而ゐりられい廣くに門人の
そふ授け給ふ寛小答未乃年梓人のまよりて
改め梓ふちりぐりと幸い早く知く見と存ねる
人の問答を久西明わるくを海快活ゐり名人
恵なるがこと紀見と読く書とうること知るべ
仏ゆ人まるこく様しくあま稀く授け給ふ師の
問答と書を時今小活られい学いるく精神
旦智道乃りられば学とうしい未学の輩を教へ
ふんあるがゆ人まを後海柳橋而くを遠面
乃累とまねられど読人名牛之を而るるもぢ仏和て

或ハ勝んを助ふんの恐ふけ西ふ答なるして換わんん
答ふられ成沒西ふんと欲をかるゆ人まを今ひろく伝ん
事と欲せず
丙戌乃年下巻一二冊と可一法ふ丁亥の年又ふられ
を沒ふんふ病とるくの故ゆやみふして法まを不
策同年上巻を沒め出ふと欲をるびふくふ果ふず
先師嘗問答乃中儒佛と海ゆる而のを紀今見を読
まを理精尚と沒乃事と見ふ
又問答上巻答孝沒まを解發して筆とりをゆ人
沒孝字を播寿と孝紙乃前小校くい敬くそそぶこ
とあるどとの人を之今ふられを為ぐを為らし

又日本書志家あり世代傳りの業と為る的の人後ハ
或ハ韜發眞起わんうん術乃精微用功下手の奥地の
ごとくさいまぐるうを後ドー及ずそれ先師乃意が
くれとも先とりくい日巷を出を事こと年育ようる
どかりつ少人ゝ師年ちくく投家ちれと義を為ゝ今
年春又梓家小減て後ゝ板りと繁をさうく後ゝ乃
草稿乃年ありて旧年の清書小子小もりとを後
しうりせるとりくるやも誤字脱簡も亦間多しかる
ゝ今やむことるどてちれと考下し慕
改ハ編ハ再ゝを事を叙ゝ
師の志ゝをうりくちれ棒ゝ刻むも

れとりくを学乃日ゝ小新なる事と考人後小代
門巷とりて了ゝを せどて精微井廣と帝ゝ
なりゝ出乃ひ入法乃階級をなりねゝりなる
ゝ後ゝ漢ちく漢血の奥なく後紀乃れるそうあるは
郁て先師のかそれも難ゝ偏らんう吾堂紙誠

庚寅六月既望門人識

江戸傳馬町三丁目
書林 岩本九左衛門開板

天保二年辛卯
秋八月磨滅補刻

日本橋通貳町目

江戸書林

小林新兵衛

嵩山房蔵板目録

東都日本橋南二町目角 小林新兵衛

李于鱗唐詩選 南郭先生考訂 小本 全

同薄用掃同無點 全二冊

同大字素讀本 全三冊

同四聲片假名附 全三冊

同平假名附 全二冊

同國字解 南郭先生辨 全四冊

同解 東山先生述 全三冊

同掌故 此書故事頭書ニクハシクアラハス 全四冊

同講釋 增補 全五冊 全七冊 南郭玉山筑波諸老先生ノ講説頭ニ故事ヲアゲ國字ヲ以テ委ク注ス

同箋注 淡園先生著 全八冊

古文孝經 春臺先生音注 全一冊

同正文 同訓点付 全一冊

同標注 兼山先生著 全一冊

同參疏 同 先生著 全三冊

同片假名附 全平假名附 全

同國字解 春臺先生撰 全一冊

同講釋 小林文由録 全二冊 太宰先生講説并先生ノ序モ片カナニテ注シ初学ノ為ニナルベキ書ナリ

同私記定本 朝川善庵先生著 全三冊

同集覽 北山山本信有撰 全三冊

同山子點 全一冊

唐詩選餘言 淡園先生著 全二冊
同夷考 平賀先生著 全五冊
同兒訓 新井白蛾先生著 全三冊
同唐音附 五言絶句 七言絶句 全一冊
同畫本 五言絶句七言絶句 五言律 同續 四 五冊ヅヽ編
諸名家ノ畫ニシテ詩ノ意ヲ畫ニアラハシ平カナニテ註釈セシ面白キ書ナリ
同和訓 一名経典余師
此書本文ヲ頭ヘノセテ平カナヲ付又平カナニシテクハシク注釈セシ本ニ
同字引 寸珎本 全一冊
同詩かるた 五言絶句 七言絶句 箱入 同
草書唐詩選 東江先生書 全三冊
草書同 烏石先生書 子昌先生書 全三冊

古文孝經白文 東江先生書 素讀大字本 全一冊
同冢註 太峯先生著 全二冊
同和字訓 同先生著 平カナ註 全一冊
同解 金勝翁述 全一冊
此書孝經ノ意ヲ童蒙ヘ知シメンタメ本文ヘカナヲ付平カナヲ以テ注セシ書ニ
同國字辨 徂山先生閲 全三冊
古文孝經 清原点 全一冊
同足利本 全一冊
同國字口義 全一冊
同外傳 全 同古傳 全
清人知不足齋叢書唐本飜刻
春臺先生音孔傳古文孝經 全
孝經平林先生書 石揭 全一冊

草會唐詩選 東洲先生書 全一冊
五禮唐詩選 同 先生書 全二冊
唐詩品彙 五七言律 排律 全五冊
同小本 五七言絶句 全五冊
唐詩遺 南豐先生撰 小本 全一冊
此書ハ唐詩選ニモレタルヲ集メテ句妙作意ノ勝レタル詩ヲ撰マヽ人ハ唐詩ヲ学フニハ必ず右ニ置ベキ書ニ

論語古訓 春臺先生著 全五冊
同素讀正文 同 訓点付 全一冊
同古訓外傳 同撰 全十冊
論語正文 山子点 全一冊
韓文公論語筆解 全一冊
論語捃解 全一冊

孝經馬場先生書 石揭 全一冊
女孝經 唐鄭氏著 素讀本 全一冊
同經典余師 島井蘭山先生譯 全一冊
此書本文ヲ首書ニノセテ平カナヲ付本文一章一句ゴトニ詳ニ和解ヲ扨スルユヱ幼少ノ女子トイヘドモイロハヲ知スバ師匠イラズニ讀下シ其コトワリヲ明ラカニ知ルベシ父母舅姑夫ヘ孝貞ノ道ヲ教ルハ此書ニシクハナシ孝ハ國家ノ至宝タリ其シカタ悉コヽニアゲタリ
女訓孝經 和漢畫入 八隅山人著 全一冊
女孝經ニナゾラヘカナ文ニシテ女子ノ教第一ニス頭書ニ和漢孝貞ノ賢女ヲアラハシ身ノ行美々シキ教専ラニシテ父母舅姑夫ノ心ヲモヤスカラシメ子孫モ自ラ孝貞ニ有タツヘキ必用ノ書ニ土産進物ヲ下ニ綱法ヲ本ヘ
南郭先生文集 全廿四冊
同絶句集 五七言 小本 全一冊
芸閣先生文集 全七冊

論語徵訓約覽　全五冊
論語徵正文　全一冊
孔子家語　春臺先生增注　全五冊
同標箋　同撰　全五冊
同國字解　鏡湖先生述　全五冊
太宰増注千葉標箋冢田注等合考其説ヲトリテ則片假字ヲ交ヘ明白ニヨミヤスク初心ノ人ノ為ナラントス聖人ノ有カタキ教何ゾ日月ニ異ナラズヤ因テ四民ノ輩上下トモ此書ヲヨマズンハ有ベカラズ論語ト家語トハ内外表裏ノ如シトモイヘリ
孔子行狀圖解　全一冊
孔子沛延ヨリ沛一代ヿヲ図ヲ出シ漢文ヲ以詳ス
孔子事跡圖解　全三冊
瑞陽先生ノ口授ノ旨ヲカナ文ニシテ天民鷲洲両先生ノ画図ヲ以テ詳ニス孔子ノ事跡ヲ知リ此書ニシクハナシ

觀海先生集　全六冊
蘭亭詩集　全六冊
蘭水詩草　谷友信文卿著　全三冊
東野遺稿　安藤　全三冊
中山詩稿　全一冊
鐘情集　全二冊
鶴樓詩稿　全三冊
日本名家詩選　滕元昺輯　五百四十五首　全一冊
徂徠南郭太宰諸先生ヲ始メ諸家ノ詩ヲ集ム
日本古今詩選　淡園先生編選　全一冊
踏海集　服元雄仲英著　全八冊
同遺　同著　全二冊

孔子御一代記　全五冊
升堂圖解　蘭堂先生画　全一冊
孔子及高弟ノ賢人ノ事跡ニ画ヲ加ヘ知ラシム
經典余師　弟子職　百年先生著　全一冊
師弟の礼ヲ述シ書ニテ本文ヲ首ヘアゲカナヲ付平カナニテクハシク註セシ書ニ
孝經鄭氏解　清洪頤煊補證　日本東條弘増攷
同西造簡字　同撰　全一冊
詩經古註　前漢毛萇傳　後漢鄭玄箋　全五冊
七經孟子考文補遺　全三十冊
大學解　中庸解　徂徠先生著　全三冊
徂徠先生學則　全一冊
同解　三浦衛興淳夫撰　片カナ注　全一冊

春臺先生文集　合本　全十二冊
詩書古傳　春臺先生著　全十二冊
藍田先生文集　同著　全六冊
同講義　同著　全一冊
詩題苑　物茂卿編選　全三冊
蒙求拾遺　江廣保著　全三冊
李瀚ガ蒙求ニ遺セルヲ拾テ標題ニ声韻ヲオスモ旧キニ倣ヘリ凡四百八十句八出所モ明細ニセリ南郭ノ序アリ
同標題　河保寿先生書　大字　全一冊
同片假名附　一枚摺　全
大東世語　南郭先生著　全五冊
本朝古ノ公卿武將名僧士庶ノ言行世教ニ益アルベキヲ部類ヲ分チ述タル書ニ
冢註論語　太峯先生著　全五冊

學則國字解 熊井清庸撰 全一冊
同 并附錄 藍田先生標注 全二冊
李滄溟尺牘 蘭陵先生考訂 全一冊
同考 上毛九峰山人纂 全三冊
同兒訓 新井白蛾先生著 全四冊
南郭尺牘標注 櫟岡先生輯 全二冊
發字便覽 冢田大峯先生著 全一冊
南郭尺牘標注 櫟岡先生輯 全二冊
梅山普悅 全一冊
大梅禪師語錄 全二冊
文徵明阿房宮賦 行書 石搨 全
玉華帖 廣澤書 同 全
和文章 烏石山人書 釋文付 全
大悲堂碑記 河保壽書 全

論語古訓正文 片カナ付 全一冊
度量衡考 物茂卿著 全二冊
發音錄 全一冊
發音捷徑 全一冊
威儀略述 增林寺嫩控集 全一冊
洞上規繩 同 全一冊
梅山普悅 全一冊
大梅禪師語錄 全二冊
文徵明阿房宮賦 行書 石搨 全
玉華帖 廣澤書 同 全
和文章 烏石山人書 釋文付 全
大悲堂碑記 河保壽書 全

漢土歷代名畫苑 全一折
唐宋ヨリ明初迄ノ画家ヲ上品中品下品ニ部分シ其得タル品目ヲ記ス且佛祖ヨリ禪宗大德寺嗣世ノ法系ヲシルシ茶人墨跡ヲ好人ニ順次ヲ見安カラシム

明醫小史 官医望月鹿門先生著 全一冊
明朝医家著書等ヲアゲマヽ其評論ヲ加フ附錄ニ順治以来ノ医家ヲシルス
復古明試錄 稲葉先生口授 全一冊
童蒙日用明鑑 全二冊
三家詩話 大風先生著 全一冊
滄浪詩話徐昌穀ノ談藝錄王敬美ノ艺圃擷餘ヲ合刻ス徂徠先生ノ序アリ
樂府古題要解 南昌先生考訂 全一冊
漢魏以来樂府ノ題ニ用ル所ノ意ヲ詳ニス
產語 春臺先生著 全二冊
此書ハモト先生草稿本ヲ市ニ買得テ益アル書ナレハトテ校合シ全書トセラレシ故文ニ此事ノセタリ
和讀要領 同先生著 全三冊
句讀ノ法素讀ノ要ヲ述儒士音注ヲ見ヤスク相違ノヨミヲナスヿ又字訓ノコトマデアリ初学心得ニナル書ゝ

芭蕉翁碑 石搨 全
大橋御上洛式 全
同書狀集 全
同江戸往來 全
待欲消息 全
神器譜 唐本飜刻 全五冊
明中書趙士禎著日本清水先生校
武備ノ要ヲ述サマヽノ銃炮放打ノ法其制作図ヲアラハシ火芽ノ方戰陣ニ用カタ其薀奥ヲ尽シ兵書ニイマダ書サル処ニテ火攻ノ要具武門必用ノ書ゝ
甲冑著用辨 井上睿下先生著 清水赤城先生校 全二冊
甲冑早被ノ傳六具ヲ着整ノ迩図ヲアラシ末巻ニ早血止兵粮凡祕事数ヲ加ヘ武門ノ助トスル者必用ノ書ゝ
帶甲通 小寺信正大人選 全二冊
凡鎧制作ヨリ着用ノ仕方ソノ外用具ヲ委クシルシ武門必用ノ書ゝ

辨道書　春臺先生著　全一冊
儒佛神道ハ島ノ三足ノコトシト云ヲ破シテ道トハ孔子ノ天下国家ヲ治ル道ノ外ニナシ巫祝ノ道ハ小道ニテ仏道モ国家ヲ治ル用ナク皆道トスルニ足ラザルコトヲ平カナヲ交ヘ書タル

聖學問答　全先生著　全二冊
宋朝程朱ノ理学ヲ説破セシ書

聖道合語　冢田大峯先生著　全二冊

同得問　全先生著　全一冊

学語　全先生著　全一冊
学問ノシカタヲ和文假字交リニ書タル

六經略説　太宰先生著　全一冊
詩書礼楽易春秋ノ用ヲ説宋朝程朱ノ学徒ノ謬ヲ論辨セシ片假字和文ノ書ナリ

國字訣　楡井元簡大人撰　全一冊
イロハ假字ノ本字ヲ古書トモヨリ考有テ誌シ片假字ノ本字ヲ末ニ出ス

官職俗訓　全一冊

新著聞集　全十二冊
近代ノ人物ノ事ヲ記シ人名ヲ左ニ分ツ忠義孝行ノ類アリ新奇ノ怪談モマジリアレハ世ノ戒ノ為ニ志ノ書ノ通ノ如クニ書ス

心学俗語　平英義著　全二冊
世ノ人情ノ利ヲ説テ平ク書ス冨貴ハ天ノ与ル所ト教訓ノ中ヘ面白キ事ヲ書クワノセ書アリ

民家生要紀　文荊山人撰　全二冊
一名後世仕合袋
世ノ人ノ家業ヲ学ハシメンタメニ治ル人ノ産業ヲ説ハ人ノ手ヲ取テ教ルカ如ク先ヲ知モ知ラヌモ知ラヌ者ヲ知ラシムル為ニ

漢の故事　全一冊
乃弗節の名臣四科社稷名臣の行実家ノ家業ノ人ヲ教ル為ニ作ル

行書二王脱　全六冊
此書ハ二王法帖其外諸帖ノ行斡ヲ書ヲ以テ編集シ字ノコトニ何レノ帖ノ斡ナルヲ知シメ摹刻精妙ニ二王ヲ学ブニ専要ノ書

老子特解　春臺先生撰　金峰先生續校　全二冊

同正訓　荷九明哲夫註　全二冊

御家末流民家學要　玄水考三先生共　全一冊

女童宝記　平井芝軒先生校　全五冊

圖繪宗彝　唐本翻刻　全五冊
人物山水花鳥蘭菊梅竹草木獣類畏類高士画稽筆法ヲ出シ附録画論アリ

繪文匣　松井三郎撰　全一冊
勝人一百人ヲ画ク俳諧先生事の由ヲ加ス

椿年画譜　和人物之部　全一冊

同　二編　三編
右コレクク人物花鳥ヲ交ヘ初画ヲ学フニ肝要本之

挿花衣之書　朱一馬撰　全四冊
四風遠州

同　後篇　日撰　全四冊

衣書口傳抄　日撰　全一冊

挿花ひとり稽古　日撰　全一冊

同　後篇　全一冊

挿花百瓶家式　馬文撰　全二冊
遠州流

平日男童宝死 [illegible] 全五冊

[illegible]

孝經宗旨引證 嵋峰先生校 全一冊

孝經ハ孔門ノ高弟聖人ノ大道大貫皆傳アリシ曾子ノ書ニテ古文孝經孔安國ノ傳後世宋ノ朱文公刪定シ刊語ノ書成今文孝經今孝經大義ト云其後明ノ王陽明孔孟ノ道ヲ信シ孟子性善ノ說ノ如ク人皆良知良能ヲ具ヘタルヲ以テ衆ヲ啓示ス其風ヲ学者頗ル多シ就中羅汝芳孝經宗旨ヲ著シ羅氏ノ門人楊起元孝經引證著ス聖門ノ学孝經最要ナルヲ見得テ著述スル処ノ古今紛ミタル說ヲ用ズ二書合刻ノ此冊ヲ以テ至要ノ道ヲ會得スベキモノナリ

焚書收燼 鬢髮先生撰 全七冊

焚書ハヤケタル書收燼ハモエクヒヲサルト訓尚書ハ孔子自ラ敘王ヲ処六経ノミニテ堯舜禹湯武王及ビ伊傳周召古ノ聖主賢臣国ヲ治メ天下ヲ平ス政要悉クコニアリ暴秦悪ヲ逞シフセントスル儒書ハ人々タル道ヲ記シ悪ヲスルノ妨トテ天下ノ儒書ヲ集メ積テ火燃トナス時ノ賢者大道永ク廢ルヲ哀ミ或ハ負テ深山ニ遁レ或ハ壁ニ塗藏シテドセンガ年ヲ越テ出モアレド錯乱甚シ時ナル哉命ナル哉儒道ノ大厄タリ孔氏ノ壁中ヨル出ルヲ古文尚書ト云孔安國傳ヲ作ル又伏生ト云人長寿ニテ博文強記能古昏ヲ口授ス此翁ノ傳ル処ヲ今文尚書ト云漢ノ馬融鄭玄註ヲナス是亦晋ノ乱ニ滅セリ今世ノ傳ル古文尚書秦火ニ錯乱脫誤シ篇次序ヲ失スル者許多ナルヲ鬢髮先生諸書ニ考ヘ訂シ敘テ定メ然テ尚書古色復シ真ノ面目ヲ顯ス大業ナル哉世ノ尚書ヲ讀ン二ハ必ズ此書ヲ以テ正ヲ取ルベキモノナリ今迄世ニ行ハル処ハ燃ノマヽナルヲ此度簡篇ヲ正シク成書ノ業ノ成ル字ニテ知シムル

沛家農家大學 平仮名附 全一冊

此書ハ男女老少ト雖モ一切ノ人ノ[illegible]

幼學指南 清王雲軒老人述 全一冊

此書ハ清朝人ノ作ル幼児ノ孝悌ヲ教ル[illegible]

翁問答 中江藤樹先生著 全三冊

此書ハ人ノ去生ノ[illegible]

繪本孝經 全一冊

此書ハ文字平かなをつけ注釈を加へかゝる事業に[illegible]

古文孝經正文大字本 春臺先生訓点 全一冊

繪本忠經 前北齋爲一老人画 全一冊

[illegible]

忠經集註詳解 漢馬融撰 漢鄭玄註 全一冊

經典餘師忠經 高井蘭山先生述 全一冊

孝經十八章ハ孝ノ道ノ要ヲ天下ニ行ヒ君ノ
ヲシヘニ集セリ成ヒラケテ後澤ヲ融字ヲ
季長ト號シ十八章ヲ作リシヲ玄字鄭玄字ハ
康成ト號シ孝經ノ註ヲ作リ世ニ傳ヘリ

孝經小解 備前藩大儒 熊沢蕃山先生著 全二冊

此孝經ノ註ハ幸蒙ノ初メ蕃山先生ノ學人ニ
教ヘラレシ時ノ筆記ナリ

御成敗式目 弓園法親王点

繪本唐詩選 五七言古詩 翠溪先生画 全五冊

同 五言律排律 續編 前北齋爲一老人画 全五冊

同 七言律 同画 全五冊

天保新刊 唐音附 唐詩選字引 寸珍本 全一冊

舊板畫數ノ差ヲ改毎字韻書ニ檢シテ唐音ヲ改附ス

綿圃要務 ちくつくりくさの也

文政倉役の三ツ島豆のごとく一ツとも欠べからず
此本後ハ[illegible]ものの[illegible]大切のものなり[illegible]
國[illegible]必ず仮り用ゆるあるにこの死ハ出来ず
かゝる三ツの合ひて仮ゝ[illegible]ものなり先ハ[illegible]
その[illegible]に[illegible]かゝ[illegible]ことなりて今ハ[illegible]
[illegible]世に[illegible]ん米麦と用ゆ[illegible]
で[illegible]と云の医[illegible]の[illegible]
[illegible]

養生嚢 小川先生作 全二冊

[illegible]

訓蒙天地辯 高蘭山先生著 全三冊

[illegible]

生花千代之松 古流二百瓶之圖 松秀齋先生撰 全四冊

[illegible]

豐稼錄 大藏永常著 全一冊

附錄 農家[illegible]

[illegible]

堪忍記 貝原先生作 合巻四冊

[illegible]

女古狀揃 [illegible] 井蒙山先生撰 画入 全一冊

同半紙形 [illegible] 撰 全一冊

[illegible]

級長戶風 樂水堂先生著 全三冊

[illegible]

煎茶小述 都龍軒山本德潤著 全一冊

[illegible]

繪本武者兵林 北尾雪玩齋筆 全三冊

[illegible]

正風遠州流

挿花衣香三編 貞松齋米一馬撰 全四冊